

.....

館園名 : 滋賀県立近代美術館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1984年08月26日

所在地

- ・ 〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1

公式サイト

- ・ <http://www.biwa.ne.jp/~sg-kinbi/>

設立主体

- ・ 滋賀県

運営主体

- ・ 滋賀県

設立目的

- ・ 県民の美術に対する理解と美に対する感覚を養い、生活の中におけるおいと心の豊かさをもたらすことを目的として瀬田丘陵文化ゾーンの一部に開館。

展示概要

- ・ 「日本美術院を中心とした近代日本画」「郷土滋賀県ゆかりの美術」「戦後アメリカと日本を中心とした現代美術」の3つの方針で収集・展示。

活動概要

- ・ 講演会、講座、日曜美術鑑賞会、夏休みの子どもの向けワークショップなどを開催。
- ・ 常設展・企画展に関連したセルフガイドの制作・配布。
- ・ 情報閲覧システムの整備。
- ・ 所蔵品目録、特別展図録、美術館ニュース「フラミンゴ」を出版。
- ・ 友の会活動。

延床面積

- ・ 8,544.43 m²

全職員数

- ・ 13名

年間運営費

- ・ 約260,000千円

総資料点数

- ・ 約1,150点

その他

- ・

2-1. ボランティア活動 名称：滋賀県立近代美術館サポーター
滋賀県立近代美術館イベントボランティア

活動目的・経緯

＜サポーター＞

- ・ 2000年、美術館と来館者との橋渡しとなる活動を行うために設置。

＜イベントボランティア＞

- ・ 1993年、美術館教育活動の一環として取り組んだイベントのサポートを行うことを目的として登用。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 69名（2004年）
- ・ 男性：17名、女性：52名（2004年）

＜サポーター＞

- ・ 54名（2004年）
- ・ 男性：14名、女性：40名（2004年）
- ・ 平均年齢56歳：男性61歳、女性54歳（2004年）

＜イベントボランティア＞

- ・ 約15名（2004年）
- ・ 男性：3名、女性：12名（2004年）
- ・ 平均年齢24歳：男性28歳、女性23歳（2004年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：学芸課＜サポーター＞ 担当人数：常勤1名・その他（ ） 名
- ・ 部局：学芸課＜イベント＞ 担当人数：常勤1名・その他（ ） 名

活動の種類

＜サポーター＞

- ・ ①企画展・常設展の作品解説、②子ども向け月例イベントのサポート。

＜イベントボランティア＞

- ・ ③イベントのサポート、④美術館教育教材の作成。

活動その他

＜サポーター＞

- ・ 館により運営。原則として週1回の活動とし、曜日毎の班に分かれて活動している。
- ・ 年1回、代表世話人を選出。曜日ごとに代表を選び、世話人を交えて調整会議を行っている。
- ・ 月1回、総会を実施。
- ・ 年1回、懇親会（職員を交えてのパーティー）を実施。

関連する出版物

- ・ 「DROPS」（2000年度ボランティア活動記録）＜イベントボランティア＞

関連するHP

- ・ <http://www.biwa.ne.jp/~artvolun/>＜イベントボランティア＞

館外組織（NPO等）との連携

- ・ 「子どもの美術教育をサポートする会」と連携して、滋賀県内の小中学校における鑑賞教育活動を手掛けることがある。＜イベントボランティア＞

活動個別シート ①企画展・常設展の作品解説<サポーター>

◇活動開始年

- ・ 2001年

◇活動人数

- ・ 54名(2004年)

◇活動内容

- ・ 企画展・常設展のギャラリートークを行う。

◇活動日

- ・ 原則として開館日はすべて。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ サポーター控え室あり。関連書籍、ビデオを常備。

◇運営(シフト 等)

- ・ 曜日ごとの班に分かれて、週1回活動(ただし、急な欠席に備えてのサポート体制あり)。

◇交流(情報、組織 等)

- ・ 連絡網を設置。月1回の総会を実施。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 年1回、6月頃から、HP、新聞などを通して、募集。
- ・ 資格:18歳以上で、継続的に活動できる者。任期3年(更新あり)。

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・ 登用後、半年間の研修(3ヶ月間は講義、残りは実地演習)を受ける。
- ・ 月1回、勉強会を実施。年1回、研修バス旅行あり。

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ ボランティア保険に加入。
- ・ バス旅行のバス代金、年間通信費等は、県が費用を負担。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 曜日によって人数の差が大きいのが問題。

◇その他

- ・

活動個別シート ②子ども向け月例イベントのサポート<サポーター>

◇活動開始年

- ・ 2001年

◇活動人数

- ・ 7名(2004年)

◇活動内容

- ・ 小学生向けワークショップのサポート。

◇活動日

- ・ 月1回のワークショップの当日、およびその運営会議の日。

◇補助(予算、備品、ボランティア室等)

- ・ サポーター控え室あり。関連書籍、ビデオを常備。

◇運営(シフト等)

- ・ 美術館サポーターの中から、毎日イベントごとに有志を募っている。

◇交流(情報、組織等)

- ・ 連絡網を設置。月1回の総会を実施。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期等)

- ・ 年1回、6月頃から、HP、新聞などを通して、募集。
- ・ 資格:18歳以上で、継続的に活動できる者。任期3年(更新あり)。

◇研修(種類、内容、講師等)

- ・ 登用後、半年間の研修(3ヶ月間は講義、残りは実地演習)を受ける。
- ・ 月1回、勉強会を実施。年1回、研修バス旅行あり。

◇待遇(交通費、食費、保険等)

- ・ ボランティア保険に加入。
- ・ バス旅行のバス代金、年間通信費等は、県が費用を負担。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 曜日によって人数の差が大きいのが問題。

◇その他

- ・

活動個別シート ③イベントのサポート<イベントボランティア>

◇活動開始年

- ・ 1993 年

◇活動人数

- ・ 約 15 名 (2004 年)

◇活動内容

- ・ 夏休みの「ワークショップイベント」のサポート (司会、進行、小道具、音響、記録、資料の調達・管理)。

◇活動日

- ・ ワorkshopイベント実施日 (約 4~6 日間)、および会議の日 (約 8~10 日間)。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ ワorkshop資材購入費として、年間 50,000 円を計上。

◇運営 (シフト 等)

- ・ ボランティアによって運営。
- ・ 企画会議は、4 月~7 月の間に、約 8~10 回実施。日程は、土日を中心にメンバーの都合が最も良い日を設定。

◇交流 (情報、組織 等)

- ・ メールリスト、HP 等を設置。

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 特に選考は行わない。参加希望があれば受け入れている。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ イベントのために行う 8~10 回の企画会議が、そのまま研修となっている。

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・ 美術館友の会から、参加メンバーに、図書券が進呈される。

◇評価

- ・ ボランティアだけでも独立して手作りのイベントが開催できるほど、自主的な活動が行われている。

◇課題と展望

- ・ メンバーの年齢構成が、初期の学生中心のものから年々高くなり、学生ならではのフットワークの軽さを失ってきた。

◇その他

- ・ 外部からの要請によっては、館の外で活動を行うこともある。

活動個別シート ④美術館教育教材の作成<イベントボランティア>

◇活動開始年

- ・ 2003 年

◇活動人数

- ・ 5 名 (2003 年)

◇活動内容

- ・ 美術館が制作する、学校貸し出し用の美術鑑賞教材の作成。

◇活動日

- ・ 制作期間 (アートゲームボックスの場合は約 2 ヶ月間) のうち都合のつく日。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 教材制作の実費をその都度支給。

◇運営 (シフト 等)

- ・ イベントボランティアに声をかけて有志をつのり、都合の良い日に活動。

◇交流 (情報、組織 等)

- ・ メールングリスト、HP等を設置。

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ イベントボランティアの中から、有志を募る。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 教材作成の機会が少ないので、活動の機会が少ないのが残念。

◇その他

- ・

.....

館園名 : 滋賀県立陶芸の森陶芸館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1990年06月01日

所在地

- ・ 〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨 2188-7

公式サイト

- ・ <http://www.sccp.or.jp/>

設立主体

- ・ 滋賀県

運営主体

- ・ 財団法人滋賀県陶芸の森

設立目的

- ・ 新・国民休養県構想の一環として、伝統的な地域文化、地場産業である信楽焼をベースに、創造と遊び、自然と産業と文化が一体となった多様な機能をもつ公園として、また、人・もの・情報の交流を通して陶器産業の振興と文化の向上を図ることを目的として整備。

展示概要

- ・ 新しい陶芸の未来を展望できる国際性と現代性を備えた個性的な美術館を目指している。
- ・ 「日本の現代陶芸」「海外の現代陶芸」「滋賀ゆかりの陶芸」という方針に基づき収集。

活動概要

- ・ 特別展、特別企画展、収蔵品展、ギャラリー事業を開催。
- ・ 陶芸に関する資料の収集、保存、陶芸に関する調査研究・普及。

延床面積

- ・ 2,334 m²

全職員数

- ・ 19名（パートタイムを含む）

年間運営費

- ・ 312,000千円

総資料点数

- ・ 約1,000点

その他

- ・ 陶芸の森は、創作研修館、信楽産業展示館、陶芸館の3つの施設と広大な公園にまで広がる。

2. ボランティア活動 名称：陶芸の森ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 1996年に募集。研修会を実施。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 40名（2004年）
- ・ 男性：7名、女性：33名（2004年）
- ・ 平均年齢48歳：男性55歳、女性41歳（2004年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：総務課 担当人数：常勤 1名・その他（ ） 名

活動の種類

- ・ ①子どもの美術教育のサポート、②陶芸館の展示解説、催し物補助等。

活動その他

- ・ 陶芸の森全般のサポートを行っている。
- ・ 随時活動。

関連する出版物

・

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

- ・ 「豊かな感性と心を育てるために、すべての子どもたちに本物の芸術に触れる体験を」という理念のもと、学校と美術館の先駆的な連携授業を進めている「子どもの美術教育をサポートする会」が、特色ある連携プログラムを実施している。

活動個別シート ①子どもの美術教育のサポート

◇活動開始年

- ・ 1996 年

◇活動人数

- ・ 40 名 (2004 年)

◇活動内容

- ・ 美術館と学校・公民館とを連携することで、本物に触れる体験プログラムを実現する（主にコーディネーターをし、プログラム実施の時にはサポートスタッフをする）。
- ・ 「子どもの美術教育をサポートする会」と連携している。

◇活動日

- ・ 不定期（2004 年＜4～12 月＞は年間約 50 回、4000 名の子どもに支援）。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 支援金により運営。

◇運営（シフト 等）

- ・ 学校や地域からのニーズに合わせて、打ち合わせ、実施日を調整し、連絡。
現場を中心に打ち合わせ、反省会、検討を重ねる。

◇交流（情報、組織 等）

- ・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 2005 年度は文化ボランティア研修会を実施予定（検討中）。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ ボランティア保険に加入。交通費相当の支援金を各自に支給。

◇評価

- ・ 文化庁文化ボランティア推進モデル事業(2003・2004 年)。おうみNPO活動基金助成(2005 年)。文部科学省『体験プログラム事例集』に活動が紹介される。

◇課題と展望

- ・ 組織としての一人一人の役割分担を整備することと、スタッフのスキルアップのための研修を充実させたい。
- ・ 新しいボランティアスタッフを動員して、高まるニーズに応じられるようにしたい。
- ・ 連携する美術館も広がってきている。美術館と学校・地域を結びつけるアートを通じたまちづくりプロジェクトを一つ一つ丁寧に根付かせるコーディネートサポートをしたい。

◇その他

活動個別シート ②陶芸館の展示解説、催し物補助等

◇活動開始年

- ・ 1996 年

◇活動人数

- ・ 40 名 (2004 年)

◇活動内容

- ・ 陶芸館の展示解説を行う。
- ・ 催し物の補助を行う。

◇活動日

- ・ 随時。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

・

◇運営 (シフト 等)

・

◇交流 (情報、組織 等)

- ・ ボランティア間での交流は特にない。

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 随時。具体的な決まり事はない。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ 必要があればその都度。

但し、2002 年の実施以降行っていない。

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・ 交通費を支給。
- ・ ボランティア保険 (1 人 500 円) 加入 (費用は館が負担)。

◇評価

- ・ 展覧会解説は活発に活動しているが、その他はあまり活動していない状況にある。

◇課題と展望

- ・ 専属の職員がないので、随時活動内容を提供することが出来ない。
- ・ ボランティアの活動意欲と上手にかみあっていないためか、登録のみの人も少なくない。ボランティアの意識改革も必要。

◇その他

・

.....

館園名 : 滋賀県立琵琶湖博物館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1996年10月20日

所在地

- ・ 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

公式サイト

- ・ <http://www.lbm.go.jp/>

設立主体

- ・ 滋賀県

運営主体

・

設立目的

- ・ 「湖と人間とのよりよい共存」を設置理念とし、県民の共有財産として県民に親しまれる博物館を目指して建設。

展示概要

- ・ ①地域の誇りとして価値の永続する建築、②人にやさしい建築、③自然（環境）にやさしい建築、④湖岸の環境をリードする建築、という建築方針に従って設計。
- ・ A展示室：琵琶湖そのものとその周辺の地史。
- ・ B展示室：歴史的に人が琵琶湖とどのように関わってきたのか。
- ・ C展示室：琵琶湖とその周辺の生活や生態系からみた人と自然の関係や環境（2階）。琵琶湖やその周辺と世界の湖に住む魚を中心とした水族展示（1階）。

活動概要

- ・ 野外観察会、博物館講座などを多数開催。
- ・ 「うみんど」、研究報告書など多数出版。

延床面積

- ・ 23,987 m²

全職員数

- ・ 61名

年間運営費

- ・ 316,884,240円（管理運営費のみ）

総資料点数

- ・ 442,960点（画像等を除く）

その他

・

2-1. ボランティア活動 名称：琵琶湖博物館「はしかけ」制度 琵琶湖博物館フィールドレポーター

活動目的・経緯

<はしかけ>

- ・ 2000年、何らかの活動を始めたいという人に対し、そのきっかけと場、さらには新しい活動を発想するための環境を提供することを目的として、運用を開始。

<フィールドレポーター>

- ・ 県内を中心に、身近な自然や生き物、あるいは地域の情報などを定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館資料として保存し、展示や交流の中で活用してゆくとともに、情報のやりとりを通して博物館とレポーターどうしをつなぐ制度。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 349名（2004年）

<はしかけ> 204名（2004年）

<フィールドレポーター> 145名（2004年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：交流センター 担当人数：常勤2名・その他（嘱託）1名
（※嘱託職員は、はしかけ、フィールドレポーターの両方を担当）

活動の種類

<はしかけ>

- ・ ①咽頭歯倶楽部、②うおの会、③湖（こ）をつなぐ会、④里山の会、⑤植物観察の会、⑥体験学習の日、⑦たんさいぼうの会、⑧たんぼの生き物調査グループ、⑨近江はたおり探検隊、⑩ほねほねくらぶ、⑪丸子船探検隊。

<フィールドレポーター>

- ・ ⑫自然・生き物・地域の情報の報告。

活動その他

<はしかけ>

- ・ 年数回の登録講座を受講する必要がある。
- ・ 2002年度、2003年度と、兵庫県立人と自然の博物館で開催された「ボランティアメッセ」（兵庫県三田市）に参加。
- ・ 2004年3月に、「はしかけ活動発表会」を行い、普段交流の少ないグループ間での交流を深めた。

関連する出版物

- ・ <はしかけ> 「ニュースレター」（月1回）
- ・ <フィールドレポーター> 「掲示板」等（年8回）

関連するHP

- ・ <http://www.lbm.go.jp/>

館外組織（NPO等）との連携

- ・ イベント、調査等で、グループごとに行っている。

活動個別シート ①咽頭歯倶楽部（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2003 年

◇活動人数

- ・ 1 名（2005 年）

◇活動内容

- ・ 咽頭歯標本の製作。

◇活動日

- ・ 随時活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 館の備品を使用。

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 会員の口コミで、随時募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・ 細かい作業にも関わらず、努力されている。

◇課題と展望

- ・ 会員を増やしたい。

◇その他

- ・

活動個別シート ②うおの会（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2000 年

◇活動人数

- ・ 89 名（2005 年）

◇活動内容

- ・ 滋賀県の琵琶湖水域における魚類の分析調査を実施。

◇活動日

- ・ 第 4 日曜日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 館の備品を使用。

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・ お魚ネットワークで、県内の他団体との交流をしている。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 会員の口コミで、随時募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 投網講習会を実施。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・ 魚つかみの好きな方が多く、意欲的に取り組んでいる。

◇課題と展望

- ・

◇その他

- ・ お魚ネットワークで、県内の他団体と交流しており、大規模な調査を計画している。

活動個別シート ③湖（こ）をつなぐ会（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2001年

◇活動人数

- ・ 30名（2005年）

◇活動内容

- ・ 琵琶湖の文化的・社会的な価値を「歌」を通して再発見していく。
- ・ とくに、子どもたちが日々口づさむことができる「歌」の普及を目指しており、新しい琵琶湖の歌「生きている琵琶湖」を県内で広める活動をしている。

◇活動日

- ・ 第1日曜日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

・

◇運営（シフト 等）

・

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 県や市町村、NGO主催の行事に参加し、発表している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 行事の際に、参加を呼びかける。
- ・ はしかけ登録講座参加者に呼びかける。

◇研修（種類、内容、講師 等）

・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

・

◇評価

・

◇課題と展望

- ・ メンバーの確保が課題（子どもの成長にともない、参加を継続することが困難になる）。

◇その他

・

活動個別シート ④里山の会（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2001 年

◇活動人数

- ・ 18 名（2004 年）

◇活動内容

- ・ 館の主催する「里山体験教室」（年 4 回）の支援（事前準備、プランニング等）。

◇活動日

- ・ 教室の実施日、および下見日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 館が定める基準に基づき、費用弁償が行われる。

◇運営（シフト 等）

- ・ 会長 1 名、副会長 2 名を置く。独自の活動有。

◇交流（情報、組織 等）

- ・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 随時募集。
- ・ 資格：「はしかけ」「里山体験教室卒業生」であること。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 保険に加入（費用は、「はしかけ」が負担）。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 「はしかけ」の活動として、館が許容できる範囲について検討する必要がある。

◇その他

- ・

活動個別シート ⑤植物観察の会（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2002年

◇活動人数

- ・ 15名（2005年）

◇活動内容

- ・ はしかけグループ全体の中で、植物の研修会に位置づけられる活動を行っている。

◇活動日

- ・ 年6回程度。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 各活動日ごとに、はしかけグループの中で募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 独自のグループとしての活動はしていないが、その方向を模索中。

◇その他

- ・

活動個別シート ⑥体験学習の日（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2000 年

◇活動人数

- ・ 21 名（2005 年）

◇活動内容

- ・ 博物館「体験学習の日」事業での子ども向け学習プログラムの開発と実施。
- ・ 地域や他の博物館イベントでの体験教室の実施。

◇活動日

- ・ 土、日曜日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 活動場所として博物館実習室を提供。

◇運営（シフト 等）

- ・ 担当者として館職員 1 名。

◇交流（情報、組織 等）

・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ はしかけ登録講座（年 3 回）を実施。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ ファンドをとり、研修会（博物館での学び、学習プログラム、他の博物館での研修）を実施。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

・

◇評価

・

◇課題と展望

- ・ はしかけの会員自身が、今後の方向性を見出していくことが期待される。

◇その他

・

活動個別シート ⑦たんさいぼうの会（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2002 年

◇活動人数

- ・ 8 名（2005 年）（他に、5 人程度の外部協力者あり）

◇活動内容

- ・ 珪藻の試料収集と研究。

◇活動日

- ・ 随時活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 館の施設を使用。

◇運営（シフト 等）

- ・ 会長、会長補佐、影の会長を公選。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 総会を年 4 回開催。
- ・ web ページを準備中。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 随時募集。
- ・ 資格：珪藻など微小生物の採集、観察、研究に関心があること。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 希望があれば開催。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ ボランティア保険に加入。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 珪藻の同定が出来る人を増やしたい。
- ・ 珪藻の同定支援システムを開発中。

◇その他

- ・ 1 月に、初の論文を公表した。

活動個別シート ⑧田んぼの生き物調査グループ（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2001年

◇活動人数

- ・ 14名（2005年）

◇活動内容

- ・ 最も身近な水辺環境である田んぼに住む、大型総脚生物などの生き物調査を通して、水辺環境について考える。
- ・ 水田に水のある4月から6月を中心に、調査を行う。集めたデータは、各人が取りまとめ、試料とともに館に持ち寄る。

◇活動日

- ・ 各人の都合の良い日に活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・

◇運営（シフト 等）

- ・ 担当学芸員を中心に運営。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 年に何回か、集めた試料の同定、およびデータの取りまとめをする会を開いている。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ はしかけのニューズレターなどで募集。
- ・ 任期なし。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 4月に、調査法の研修会を行い、7月に集めた試料の同定研修を行う。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ このはしかけグループは、もともとフィールドレポーター調査で行った田んぼの生き物調査をきっかけに、田んぼの生き物に関心をもった方々の要望を受けてはじまったグループである。これまでの調査結果は、国際的な学術雑誌にも掲載されたが、学芸員主導のグループであるため、今後自主的な活動の展開が望まれる。

◇その他

- ・

活動個別シート ⑨近江はたおり探検隊（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2004年

◇活動人数

- ・ 20名（2005年）

◇活動内容

- ・ 近江の機織り文化の調査・研究。
- ・ 道具・技術の復元・再現・伝承。

◇活動日

- ・ 月2回（織姫の会）。
- ・ 月1回（研究会）。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 織姫の会、地機探検隊、地機製作隊、一から糸づくり布づくりなど、下位グループあり。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 随時、見学会を開催。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・

◇その他

- ・

活動個別シート ⑩ほねほねくらぶ（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2002 年

◇活動人数

- ・ 9 名（2004 年）

◇活動内容

- ・ 動物の骨格標本づくりを通じて、体の構造を理解し、館で使える標本を作る。

◇活動日

- ・ 月に 1 回。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 館に集る動物の遺体を使用。

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ はしかけ登録などを通じて、随時募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ はしかけになるための研修のみ。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・

◇その他

- ・ 現在、活動休止中。

活動個別シート ⑪丸子船探検隊（はしかけ）

◇活動開始年

- ・ 2003 年

◇活動人数

- ・ 30 名（2005 年）

◇活動内容

- ・ 琵琶湖の伝統的和船（丸子船が中心）について調べる。

◇活動日

- ・ 随時活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・ メールとニュースレターで交流。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 常時募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・

◇評価

- ・ 積極的に活動に参加している。

◇課題と展望

- ・ 和船の積荷復元を通じて、かつての和船の風景と利用について考えたい。

◇その他

- ・

活動個別シート ⑫自然・生き物・地域の情報の報告（フィールドレポーター）

◇活動開始年

- ・ 1997 年

◇活動人数

- ・ 145 名（2005 年）

◇活動内容

- ・ 身近な自然、生活や文化について様々なテーマで調べ、その情報をレポーターどうしで、また博物館と共有する。

◇活動日

- ・ 調査は、各人の都合の良い日に実施。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

・

◇運営（シフト 等）

- ・ 運営スタッフ（フィールドレポータースタッフ）は、第1・3土曜日に集合。
- ・ 調査の計画、取りまとめ、ニュースレターの作成、インターネットやポスターを使った公開まで、レポータースタッフが自主的に行っている。博物館の職員は必要に応じて助言を行う程度である。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 上記と関連する。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 館のチラシや口コミで募集し、1年を通して希望者は受け入れる。登録さえすれだれでもフィールドレポーターになれる。
- ・ 登録時の講座等、一切なし。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 年1回研修会を実施し、県内各地のフィールドを訪れ、地元の方とも交流する。
- ・ そのほか、年1、2回、調査結果を発表する交流会を開催。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 謝金、交通費など一切ない。

◇評価

- ・ 多くのレポーターから、調査を通して今まで気がつかなかった身近な自然などに目を向けるようになった、という意見を頂いている。

◇課題と展望

- ・ 最近、遠方からの活動紹介の依頼が多くなっており、交通費の援助について検討する必要がある。

◇その他

・

.....

館園名 : 滋賀県立琵琶湖文化館

1. 施設の概要

開館年月日（西暦）

- ・ 1961年03月20日

所在地

- ・ 〒520-0806 滋賀県大津市打出浜1-1

公式サイト

- ・ <http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/>

設立主体

- ・ 滋賀県

運営主体

- ・ 財団法人滋賀県文化財保護協会

設立目的

- ・ 県内の優れた歴史・文化を紹介するほか、さまざまな普及活動を行い、地域における生涯学習に寄与することを目的として設置。

展示概要

- ・ 県内の社寺等よりの寄託品を常設展示。
- ・ 県内所縁の作家を中心とする近世絵画（日本画）等を所蔵。所蔵作品をテーマ別に展示紹介。

活動概要

- ・ 仏教美術をテーマにした特別展の開催。
- ・ 講演会、文化館セミナー、移動博物館などを実施。
- ・ 展覧会図録、研究紀要、広報誌「浮城」などを発行。

延床面積

- ・ 4,792.575㎡

全職員数（常勤職員）

- ・ 5名（16年12月現在）

年間運営費

- ・ 85,079,921円（2003年度）

総資料点数

- ・ 点（ 年 月現在）

施設その他

- ・

2. ボランティア活動 名称：琵琶湖文化会館 展示説明ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 平成9年（1997）、生涯学習活動の一環として、特別展における展示説明ボランティアとして募集。以来、毎年特別展のみ活動。

活動人数（総数、男女比、年齢構成）

- ・ 総数37名（2004年11月現在）
- ・ 男性：9名、女性：28名
- ・ 平均年齢 65.5歳：男性67.5歳、女性61.5歳

ボランティア担当職員（2004年11月現在）

- ・ 部局名称：学芸係
- ・ 担当人数：常勤3名・その他（ ） 名

活動の種類（種類別にご記入願います）

- ・ 展示解説。

活動その他（活動全体に関わる特記事項など）

- ・ なし。

関連する出版物

- ・ なし

関連するHP

- ・ <http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/>

館外組織（NPO等）との連携（館内ボランティア以外での連携など）

- ・ なし。

活動個別シート 活動名：①展示解説

◇活動開始年（西暦）

- ・ 1997年

◇活動人数

- ・ 37名（2004年11月現在）

◇活動内容

- ・ 特別展の展示解説を行う。

◇活動日

- ・ 特別展開催期間中の土・日曜日活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ ボランティア活動費として、保険料、昼食代を館が負担。

◇運営（シフト 等）

- ・ ボランティアの活動希望日を調整して、1日2名程度で解説を行う。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 特になし。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 毎年、夏ごろから募集要項を作成して、館内、ホームページ、新聞等に掲載して募集を行う。
（数名程度）
- ・ 資格：年齢、経験を問わない。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 事前学習会（職員による養成講座）2～3回。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ ボランティア保険に加入（費用は館が負担）。
- ・ 昼食（弁当）のみ支給。

◇評価

- ・ 連続参加（5年）の表彰を行っている。

◇課題と展望

- ・ 活動やメンバーが固定化してきたため、新しい展開が難しい。
- ・ メンバーの自主性（学習意欲等）の向上をはかる。

◇その他

- ・

館園名 : 多賀の自然と文化の館

1. 施設の概要

開館年月日 (西暦)

- ・ 1999年3月27日

所在地

- ・ 〒522-0314 滋賀県犬上郡多賀町四手 976-2

公式サイト

- ・ <http://www.biwa.ne.jp/taga>

・ 設立主体

- ・ 多賀町

運営主体

- ・ 多賀町教育委員会

設立目的

多賀町は鈴鹿山脈北部の山間部に位置し、石灰岩地帯に特有の地形や特異な気候、それらに対応した独特な生物相など豊かな自然に恵まれている。こうした自然環境は、日本列島や琵琶湖の地史、生物進化、生物地理の形成に関連する重要な要素を含み、地域の人々はこれらの特異性とも関わる中で地域性の強い独自の文化と生活を築き上げてきた。このような自然と人間の歴史を地域住民自らの手で探求し、その背後にある普遍的な真理を追及することは郷土を再認識しその未来を考える上でも重要である。このような活動を行うために、多賀の自然と文化の館は活動の拠点となる施設として以下のような基本的性格を持つ(自然と人間の文化を総合的に捉える施設、住民が主体となり交流の活発な施設、多様な情報を収集・発信する施設)。

展示概要

- ・ アケボノゾウ全身骨格、山地・丘陵地の自然環境ジオラマ、鈴鹿山脈とその山麓に生息・自生する昆虫・カタツムリ・植物の標本、近江カルストエリアの鍾乳洞・鈴鹿山脈北部の岩石、美濃帯石灰岩中の化石、古琵琶湖層の化石、ナウマンゾウ臼歯・切歯の標本群、多賀町内での遺跡発掘調査で検出された遺物(縄文時代～中世)、多賀大社・敏満寺にまつわる文書や文化財(複製)、犬上炭田関連資料。

活動概要

- ・ 普及・交流事業(観察会、講演会、イベント、自然史談話会)
- ・ 調査・研究事業(コウモリ動態調査、八尾山の自然環境調査など)
- ・ その他(自然・人文科学に関する相談受けつけ、校外学習指導、教職員などの研修指導、行政機関からの助言依頼や各種委員委嘱への対応)
- ・ 展示事業(ギャラリー展、企画展、特別展)
- ・ 資料収集・保管事業(標本・史料の収集、標本作成、標本・史料の整理、薫蒸)

延床面積

- ・ 1039 m² (博物館エリアのみ) 町立図書館との共有エリアを含めると 2606 m²

全職員数(常勤職員)

- ・ 4名: ただしうち2名は兼務(2004年12月現在)

年間運営費

・ 35,645,000 円 (2003 年度)

(ただし、併設されている町立図書館と図書館・博物館の共有エリアを含めた施設維持管理経費(ビル管理費や光熱水費など)が 5,032,000 円、アルバイト・臨時職員・正職員の人件費が 22,239,000 円、戻入予算が 627,000 円含まれ、事業費・博物館の維持管理費は 8,938,000 円)

総資料点数

・ 45,000 点 : あくまで概算 (2004 年 12 月現在)

(植物さく葉 : 32,000 点 昆虫 : 10,000 点 鳥獣 : 500 点 化石 1,500 点 陸貝 : 数 100 点 魚 類 : 数 100 点 爬虫類・両生類・その他無脊椎動物 : 数 100 点 岩石 100 点弱)

施設その他

・ 多賀町立図書館が同じビル内に併設されている。また、同じ敷地内に多賀町立文化財センターが立っており、公園もある。博物館とこれらの施設をあわせ「あけぼのパーク多賀」として位置付けられている。

2. ボランティア活動 名称：多賀の自然と文化の館ジュニアボランティア

活動目的・経緯

- ・目的：地域子ども達に博物館の存在を浸透させ、あわせて人材育成をはかる。
- ・経緯：平成14年度よりスタート。

活動人数（総数、男女比、年齢構成）

- ・10名（2004年12月現在）
 - ・男性：5名、女性：5名
 - ・平均年齢 14.8歳：男性14.2歳、女性15.4歳
- *登録は1年間で次年度更新可能

ボランティア担当職員（2004年12月現在）

- ・部局名称：多賀の自然と文化の館 庶務学芸係
（文化財係という係もあり、組織上は多賀の自然と文化の館の1係ですが、実際には博物館の運営・事業実施は全て庶務学芸係が実施しており、文化財係は文化財センターを拠点に行政発掘などを行っています）
- ・担当人数：常勤職員1名

活動の種類

- ・①観察会の準備と実施の際の補助
- ・②企画展の準備の補助
- ・③野外での調査・標本収集の際の補助

活動その他

- ・登録者は、博物館の予算で傷害保険に加入してもらっています。

関連する出版物

- ・なし（募集のチラシは作成しています）

関連するHP

- ・なし

館外組織（NPO等）との連携（館内ボランティア以外での連携など）

- ・滋賀自然環境研究会（共同調査：八尾山周辺での自然環境調査）
- ・特定非営利活動法人東洋蝙蝠研究所（共同調査：河内風穴でのコウモリ動態調査）
- ・滋賀自然観察指導者連絡会彦愛犬支部（観察会の共催：ホテルの観察会）
- ・草津市立松原中学校（担当教師との校外学習プログラムの共同開発：古琵琶湖層の観察）

活動個別シート 活動名：①観察会の準備と実施の際の補助

◇活動開始年（西暦）

- ・ 2002 年

◇活動人数

- ・ 10 名（2004 年 12 月現在）

◇活動内容

- ・ 観察会開催にあたり、下見や事前調査に同行し情報・試料の収集を補助する。
- ・ 観察会の参加者に配布する資料の作成の補助をする。
- ・ 観察会の際に、参加者の誘導や連絡、機材の携行を補助する。

◇活動日

- ・ 2～3 ヶ月に 2～3 回。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 博物館の備品や設備を職員の指導の元で使用できる。

◇運営（シフト 等）

- ・ 活動予定はファックスと手紙にて連絡。予定日に都合のつくメンバーが参加。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 連絡網を作成している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ チラシ、有線放送（町内のみ）、役場広報紙にて募集を案内。
- ・ 小学 6 年生～高校 3 年生まで（10 名）。
- ・ 登録期間：1 年間（更新可）。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 博物館の予算で傷害保険に加入してもらっている。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ メンバーの固定化（複数年登録者が約半数）。
- ・ 活動への参加率の低下。

◇その他

- ・

活動個別シート 活動名：②企画展の準備の補助

◇活動開始年（西暦）

- ・2002年

◇活動人数

- ・10名（2004年12月現在）

◇活動内容

- ・企画展の際の設営、チラシ・パネル作成の補助。

◇活動日

- ・年2～3回。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・博物館の備品や設備を職員の指導の元で使用できる。

◇運営（シフト 等）

- ・活動予定はファックスと手紙にて連絡。予定日に都合のつくメンバーが参加。

◇交流（情報、組織 等）

- ・連絡網を作成している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・チラシ、有線放送（町内のみ）、役場広報紙にて募集を案内。
- ・小学6年生～高校3年生まで（10名）。
- ・登録期間：1年間（更新可）。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・博物館の予算で傷害保険に加入してもらっている。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・メンバーの固定化（複数年登録者が約半数）。
- ・活動への参加率の低下。

◇その他

- ・

活動個別シート 活動名：③野外での調査、標本収集の際の補助

◇活動開始年（西暦）

- ・2002年

◇活動人数

- ・10名（2004年12月現在）

◇活動内容

- ・野外で実施する調査や標本収集の際の補助。

◇活動日

- ・年2～3回

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・博物館の備品や設備を職員の指導の元で使用できる。

◇運営（シフト 等）

- ・活動予定はファックスと手紙にて連絡。予定日に都合のつくメンバーが参加。

◇交流（情報、組織 等）

- ・連絡網を作成している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・チラシ、有線放送（町内のみ）、役場広報紙にて募集を案内。
- ・小学6年生～高校3年生まで（10名）。
- ・登録期間：1年間（更新可）。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・博物館の予算で傷害保険に加入してもらっている。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・メンバーの固定化（複数年登録者が約半数）。
- ・活動への参加率の低下。

◇その他

- ・

.....

館園名 : 能登川町立博物館

1. 施設の概要

開館年月日（西暦）

- ・ 1997年11月08日

所在地

- ・ 〒521-1225 滋賀県神崎郡能登川町山路 2225

公式サイト

- ・ <http://www.town.notogawa.shiga.jp>

設立主体

- ・ 能登川町

運営主体

- ・ 能登川町

設立目的

- ・ 能登川町に関するあらゆる資料を収集・発信し、住民参加型博物館として、また生涯学習の場として展開することを目的とする。

展示概要

- ・ 常設展示はなく「能登川町」に関係した自然史系・人文系などの企画展を展開。また、小中学校の児童・生徒の発表の場として、「能登川」にこだわった内容でギャラリーの貸し出しなどをおこなう。

活動概要

- ・ 「能登川町」を特徴づける民俗資料・自然資料などの収集。
- ・ 小中学校と連携した郷土学習などのサポート。
- ・ 福祉関係と直係した高齢介護へのサポート。
- ・ 町の自然を見なすことを重点においた自然観賞会等の実施。（←地域学芸員を中心とした活動）。
- ・ 町に関係する企画展示の実施。

延床面積

- ・ 985.9 m²（図書館と併設のため、共用部は他に 905.8 m²）

全職員数（常勤職員）

- ・ 5名（2004年04月現在）（兼務3名、嘱託1名）

年間運営費

- ・ 約7,000,000円（2003年度）

総資料点数

- ・ 約8,000点（2004年04月現在）

施設その他

- ・

2. ボランティア活動 名称：

活動目的・経緯

- ・ ボランティアとして組織化はしていない。ただし博物館の活動をサポートしてくれる。また育ててくれる人(博物館と何らかの形で関わってくれる人)を「地域学芸員」と呼んでいる。

活動人数(総数、男女比、年齢構成)

- ・ 約 20名(2004年04月現在)
- ・ 男性：15名、女性：2名
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳

ボランティア担当職員(2004年04月現在)

- ・ 部局名称：博物館
- ・ 担当人数：常勤職員3名・その他() 名

活動の種類(種類別にご記入願います)

- ・ 館のあらゆる活動に対して、サポートしていただく。
- ・ (歴史を得意とする人、昆虫をよく知る人、魚をよく知る人、植物をよく知る人など多岐にわたる)。

活動その他(活動全体に関わる特記事項など)

・

関連する出版物

・

関連するHP

- ・ <http://>

館外組織(NPO等)との連携(館内ボランティア以外での連携など)

・

活動個別シート 活動名：①館活動のサポート

◇活動開始年（西暦）

- ・ 1997年

◇活動人数

- ・ 約20名（2004年04月現在）

◇活動内容

- ・ 館活動のあらゆるサポート（資料収集、展示設営、体験学習の講師等）。

◇活動日

- ・ ほぼ毎日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ なし。

◇運営（シフト 等）

- ・ 特になし。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 個々人と打合せ。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 特に設けていない。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 特になし。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ なし。

◇評価

- ・ 得になし。

◇課題と展望

- ・ 地域学芸員を明文化したものがいないため、その育成が必要。

◇その他

- ・ いろいろな地域学芸員が館に訪れ、相談し、そこから新しい企画、展示が生まれる。

.....

館園名 : MIHO-MUSEUM

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1997年11月08日

所在地

- ・ 〒529-1814 滋賀県甲賀郡信楽町桃谷 300

公式サイト

- ・ <http://miho.or.jp>

設立主体

- ・ 宗教法人神慈秀明会

運営主体

- ・ 財団法人秀明文化財団

設立目的

- ・ 集めた作品の美しさを通して、人々の情操を高め、それによって社会に奉仕するため。

展示概要

- ・ 南館：エジプト、西アジア、ギリシャ・ローマ、南アジア、中国などの世界の古代美術で構成される。
- ・ 北館：季節ごとに展示替えを行う。主な作品は、耀変天目茶碗、焰魔天像など。

活動概要

- ・ 企画展、講演会、講座を開催。
- ・ 展示図録、研究紀要などを出版。

延床面積

- ・ 20,780 m²

全職員数

- ・ 98名

年間運営費

- ・ 460,000,000円

総資料点数

- ・ 2,000点

その他

- ・

2. ボランティア活動 名称：MIHO MUSEUM 教育ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 1998年4月、活動開始。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 23名（2004年）
- ・ 男性： 名、女性： 名（ 年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳（ 年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：学芸部普及企画 担当人数：常勤 4名・その他（ ） 名

活動の種類

- ・ ①展示解説、②展示室係、③コンピューター関連

活動その他

- ・ 館により運営。

関連する出版物

・

関連するHP

- ・ MIHO MUSEUM Education
- ・ <http://www.miho.or.jp/japanese/educat/educat.htm>

館外組織（NPO等）との連携

・

活動個別シート ①展示解説

◇活動開始年

- ・ 1998年

◇活動人数

- ・ 12名(2004年)

◇活動内容

- ・ 常設展・企画展の展示概説を行う。

◇活動日

- ・ 土曜日・日曜日を中心として活動。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

・

◇運営(シフト 等)

- ・ ボランティアの担当者がシフトを組んでいる。

◇交流(情報、組織 等)

- ・ 年に数回交流会。
- ・ 勉強会は必要に応じて行う。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ ボランティアによる口コミ。

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・ 常設展に関してはボランティア同士で研修。
- ・ 新しい企画展に関しては学芸員が研修。

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ 交通費(3,000円を限度)を支給(文部科学省委託事業費より)。

◇評価

- ・ アンケート調査による評価。

◇課題と展望

- ・ 増員が必要だが、都市部から離れていることもあって応募者がすくないこと。
- ・ ようやく毎週日曜日にはボランティアによる解説ができるようになったので、ボランティア各自の内容の充実と新規ボランティア獲得につとめたい。

◇その他

・

活動個別シート ②展示室係

◇活動開始年

- ・ 1999年

◇活動人数

- ・ 10名(2004年)

◇活動内容

- ・ 展示室内での案内および警備。

◇活動日

- ・ 希望日。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・

◇運営(シフト 等)

- ・ 希望時間。

◇交流(情報、組織 等)

- ・

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 縮小方向にある。

◇その他

- ・ 新規募集はしてなく、過去に研修を行った人のみ参加。

活動個別シート ③コンピューター関連

◇活動開始年

- ・ 1999 年

◇活動人数

- ・ 1 名 (2004 年)

◇活動内容

- ・ ホームページ作成のお手伝い。

◇活動日

- ・

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・

◇運営 (シフト 等)

- ・

◇交流 (情報、組織 等)

- ・

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・

◇その他

- ・